

田辺市のひきこもり支援

(窓口開設 21 年目の報告)

ひきこもり相談窓口

ひとのわ



令和3年4月～令和4年3月
和歌山県田辺市

目 次

I . 田辺市におけるひきこもり支援	
1. 田辺市ひきこもり支援	 1
2. 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ	 4
II . 令和3年度 支援の実際	
1. 相談実績	 5
2. 支援の報告	
(1) 家族会(ほっこり会)	 9
(2) 青年自助会実績	
(3) 啓発活動・視察・問い合わせ	
(4) ひきこもり支援啓発講演会	 10
(5) 田辺市ひきこもり検討委員会 議題／活動	 17
(6) ひきこもり検討委員会 講義	 18
III . 参考資料	
1. ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ビラ	 27
2. 認定NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ	 28
3. NPO法人 かたつむりの会 紹介ビラ	 33
4. NPO法人 共生舎 紹介ビラ	 34
5. 田辺市「ひきこもり」検討委員会 設置要綱／委員構成	 35

I. 田辺市におけるひきこもり支援

＝コロナ禍2年目に、ひきこもり支援について考える＝

田辺市では、平成13年にひきこもり相談窓口を開設するとともに、保健、医療、福祉、教育、雇用などの関係者からなる「田辺市ひきこもり検討委員会」を組織し、相互の連携を図り、協力しながら課題の解決に取り組み、21年目を迎えました。

ひきこもり支援の取り組みを始めた当時に比べると、ひきこもり相談窓口は地域の中で、身近になってきたと感じています。

また、若者に対しては、相談窓口以外にも相談できる機関が増え、ひきこもり支援に関わる関係機関の活動も盛んになり、社会資源も充実してきました。

しかし、令和元年に出現した新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活様式は一変しました。「ステイホーム」という言葉が多用され、不要不急の外出は控えるという自粛生活において、「こもる生活」の不自由さを感じ、生きづらさや寂しさ、1人でのいることの不安を感じた方も多いかと思います。

そういう状況の中、ひきこもり状態にある方を含む生きづらさを抱えている方々が、希望や自分自身に対する肯定的な感覚、地域社会とつながっている感覚などを、再び見出していく過程を取り戻していくことは、とても困難であると考えます。

そのため、自宅以外に安心できる居場所や交流の場、学ぶ場、働く場、社会に貢献する場を少しずつ見出していくことが重要です。そのきっかけとして、必要とする方に情報が伝わるための定期的な広報活動、魅力的かつフレキシブルな情報発信が不可欠となります。

そして、表面化していない潜在的なニーズや長期化する中高年のひきこもり、8050問題にも対応すべく、より相談しやすい体制を整備すると共に、地域住民が安心して過ごせる街づくりをどうしていくかを考えていくことが、これからの課題ではないかと思っています。

今後も引き続き、ひきこもり検討委員の皆様と共に、ひきこもり相談窓口「ひとのわ」の周知や気軽に相談していただけるような体制づくりに努めながら、切れ目のない支援を構築していけるように、ひきこもり検討委員会を中心としたネットワークを活かし、中学校や高等学校等の教育機関や支援機関とも連携を図り、人の輪を大切にしながら支援できるように取り組んでまいりたいと思います。

ひきこもり支援の経過

平成 9 年 6 月	議員一般質問。
平成 13 年 1 月	田辺市ひきこもり検討委員会を設置。
平成 13 年 3 月	ひきこもり相談窓口の開設(保健師 1 名専任)。
平成 13 年 4 月	田辺市ひきこもり検討小委員会の設置。
平成 14 年 5 月	HAPPYが、ハートツリーハウス開所。 社会的ひきこもり青年の居場所活動開始(国・県より補助金)。
平成 14 年 6 月	田辺市ひきこもり家族会の設置。
平成 16 年 1 月	田辺市ひきこもり青年自助グループの育成(月2回)。
平成 16 年 3 月	ひきこもり相談窓口担当者1名増員。 2名(保健師・相談員)体制に。
平成 16 年 4 月	田辺市ひきこもり家族会が自主運営。
平成 17 年 4 月	ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)が開始(週 1 回)。
	ハートツリーハウスが、「ひきこもり者社会参加支援センター」 運営事業補助金を受けて運営(県・市の補助金)。
平成 18 年 10 月	ハートツリーハウスがNPO法人認可 ハートツリーに名称変更。
平成 20 年 8 月	NPO法人ハートツリーが南紀若者サポートステーション開設。
平成 21 年 4 月	ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)が休会。
平成 26 年 4 月	南紀若者サポートステーションが、若者サポートステーション With You 南紀に名称変更。 (県より若者総合相談窓口 With You 事業が委託されたため)
平成 27 年 4 月	ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリーが、 ひなたの森に名称変更。
平成 29 年 12 月	NPO法人ハートツリーが認定NPO法人に正式認定。
平成 31 年 4 月	認定NPO法人ハートツリー ひなたの森の 和歌山県「ひきこもり者社会参加支援センター」事業が 国の「ひきこもりサポート」事業に移行。
令和 2 年 4 月	若者サポートステーション With You 南紀で、 サポステ・プラス 就職氷河期世代の就労支援がスタート。
令和 2 年 10 月	ひきこもり相談窓口の愛称が「ひとのわ」に決定。

田辺市ひきこもり支援ネットワーク

- ◆ 官民を超えたひきこもり支援対策の構築
- ◆ 事業報告・計画への意見
- ◆ 視察・講演会等への協力
- ◆ 対応が困難な事例の相談
- ◆ 委員の学習会

ひきこもり検討委員会 (年2回)

市担当課（商工・福祉）
紀南児童相談所
田辺市教育研究所
田辺市養護教諭研究会
和歌山県教育庁
紀南教育事務所
高等学校
紀南こころの医療センター

ほっこり会（家族会）
知音 CHI-IN（自助会）
学識経験者
精神科医師
臨床心理士・公認心理師
NPO法人 かたつむりの会
NPO法人 共生舎
（公社）白浜・田辺青年会議所

ひきこもり検討小委員会 (月1回)

市担当課（保健・福祉・教育）
田辺保健所
西牟婁圏域障害児・者相談センター
にじのわ

やおき福祉会
ふたば福祉会
認定NPO法人 ハートツリー
ひなたの森
若者サポートステーション
With You 南紀
学識経験者
臨床心理士・公認心理師

※  公的機関  は民間機関

ひとのわ

ご家族・ご本人さんだけで悩んでいませんか？

不登校のまま卒業・・・

中退後自宅中心の生活をしている・・・

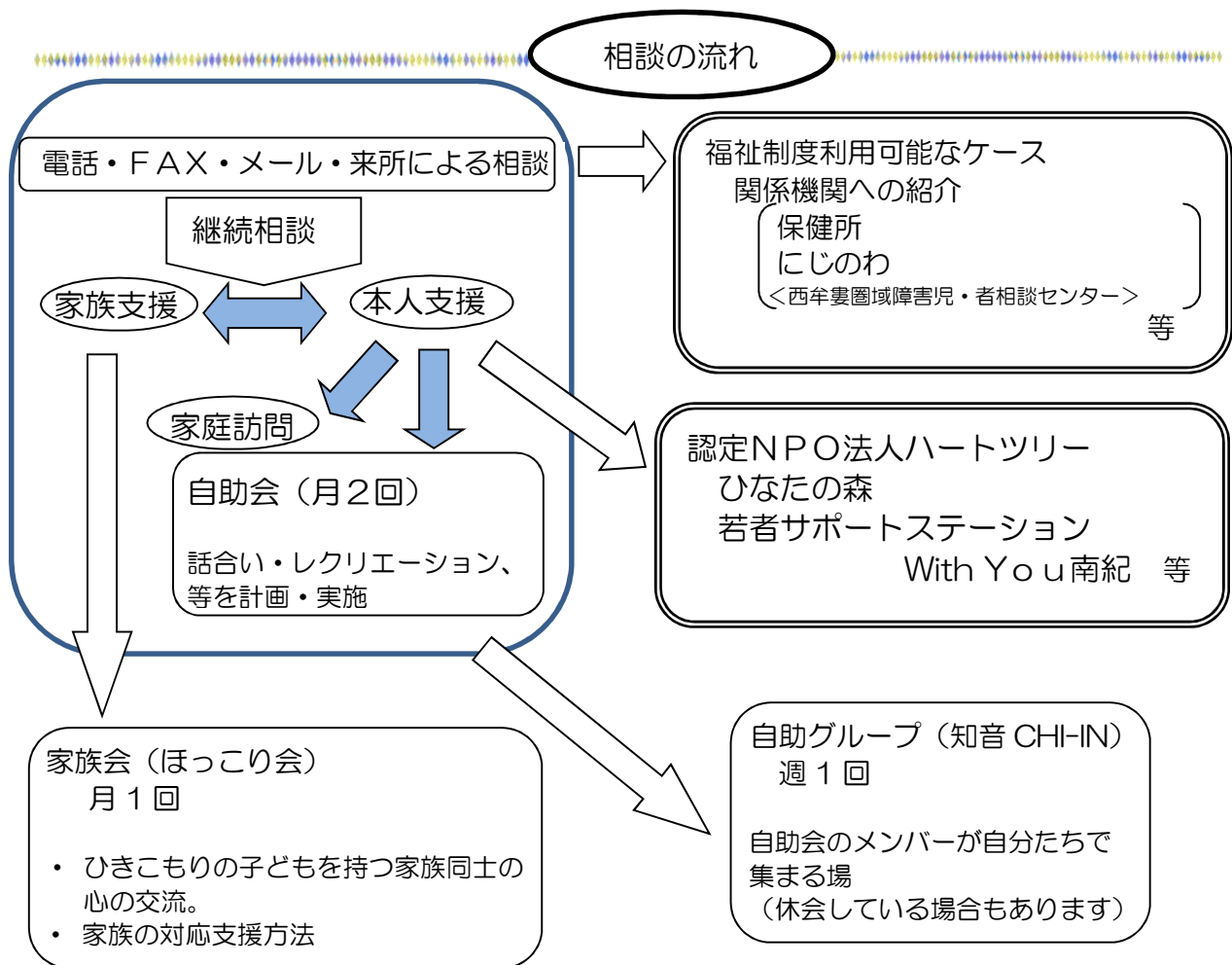
進学、あるいは、就職したけれど途中で社会参加をしていない・・・

まずは、電話・メールをいただけませんか？

相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していきます。

自助会、家族会（ほっこり会）があります。

会への参加は、相談窓口担当者がお会いした後紹介させていただきます。



問い合わせ先

田辺市健康増進課

TEL : 0739-26-4901(平日8:30~17:15)

TEL・Fax : 0739-26-4933(ひきこもり相談窓口専用)

E-Mail : shc@city.tanabe.lg.jp

Hp : <http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>

※ 保健所にも「ひきこもり」相談窓口があります。

田辺保健所 TEL 0739-22-1200(代表) (平日9:00~17:45)



Ⅱ－1. 相談実績

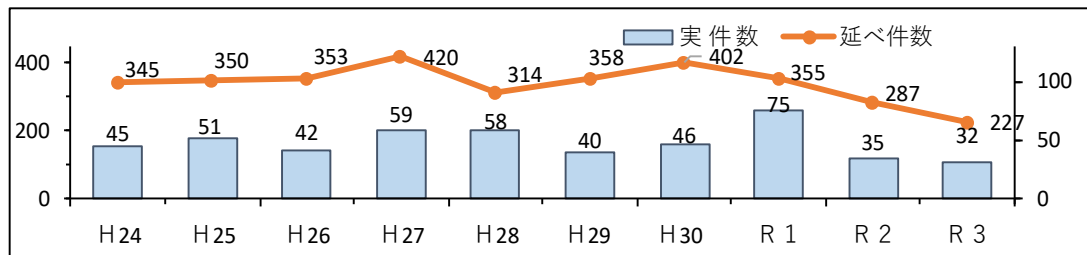
1. 相談実績 令和3年度

相談窓口開設以降、令和4年3月末までに 693 家族 722 件の相談がありました。
(内、令和3年度は 12 家族 12 件)

(1) 年度別相談件数

平成 24 年度から令和3年度の 10 年間の相談実件数、延べ件数の推移を示しています。

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
実件数	45	51	42	59	58	40	46	75	35	32
延べ件数	345	350	353	420	314	358	402	355	287	227



(2) 令和3年4月～令和4年3月までの状況

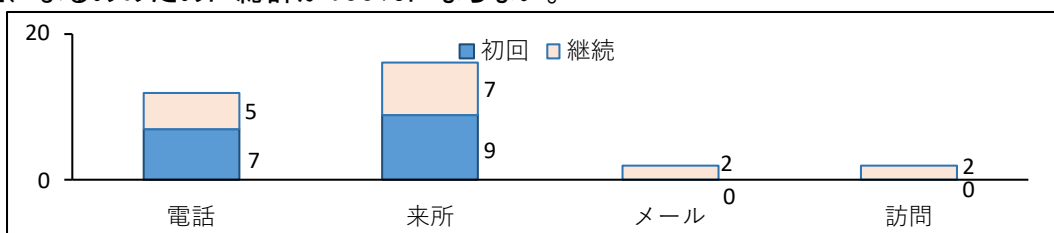
① 月別相談延べ件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期合計			
電話	5	6	4	1	3	8	27			
来所	11	9	9	14	11	4	58			
メール	1	0	0	2	0	0	3			
訪問	4	5	4	4	4	1	22			
合計	21	20	17	21	18	13	110			
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期合計	総合計	%	
電話	9	2	9	3	5	3	31	58	25.6	
来所	11	10	9	9	9	8	56	114	50.2	
メール	0	0	0	2	1	1	4	7	3.1	
訪問	5	6	4	3	3	5	26	48	21.1	
合計	18	18	22	17	18	17	117	227		

② 相談実件数

	初 回	継 続	合 計	%
電話	7	5	12	37.5
来所	9	7	16	50.0
メール	0	2	2	6.3
訪問	0	2	2	6.3
合 計	16	16	32	

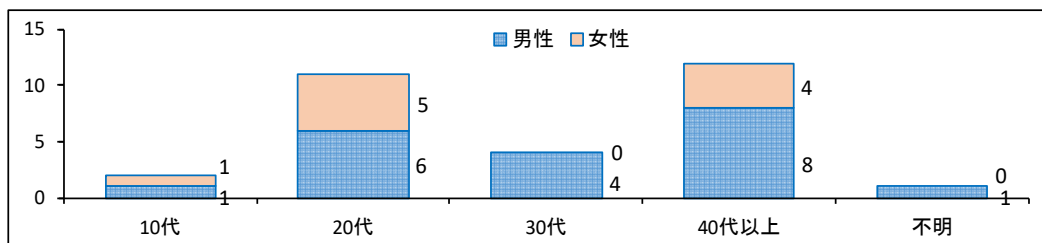
※ まるめのために総計が100%にならない。



③ 年代別男女別件数(32 件中)

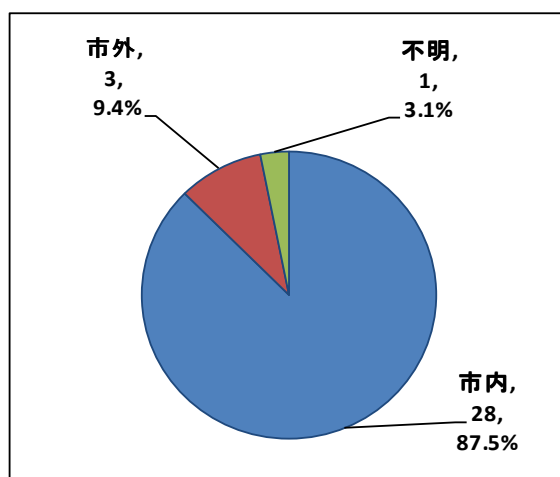
	10 代	20 代	30 代	40 代以上	不 明	合 計	%
男 性	1	6	4	8	1	20	62.5
女 性	1	5	0	4	0	10	31.3
不 明	0	1	0	0	1	2	6.3
合 計	2	12	4	12	2	32	
%	6.3	37.5	12.5	37.5	6.3		

※ まるめのために総計が100%にならない。



④ 居住別(32 件中)

	人	%
市 内	28	87.5
市 外	3	9.4
不 明	1	3.1
合 計	32	



⑤ 相談結果(32 件中)

	人	%
継 続	14	43.8
終 了	1	3.1
紹 介	0	0.0
そ の 他	17	53.1
合 計	32	

終了

・転出(1)

その他

3ヶ月未満の継続

・家族からの相談(2)

1回のみ相談

・本人からの相談(1)

・家族からの相談(8)

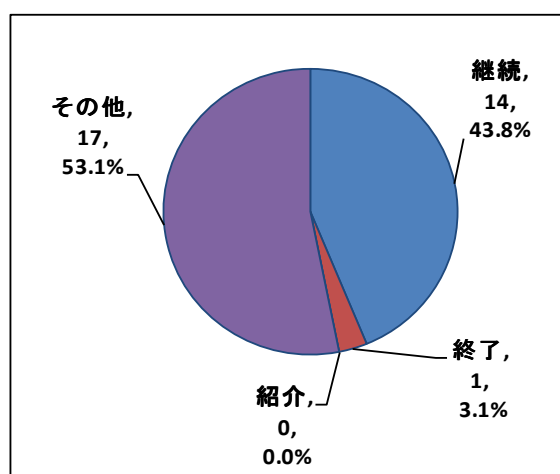
・親戚からの相談(2)

・関係者からの相談(1)

・本人・家族からの相談(1)

・家族・関係者からの相談(1)

・知人からの相談(1)

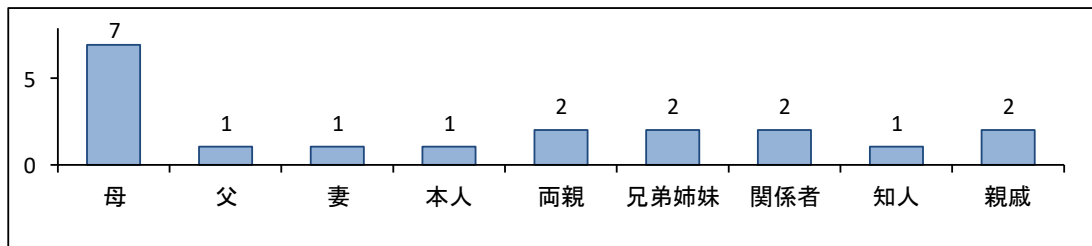


⑥ 初回相談者

	母	父	妻	本人	両親	兄弟姉妹	関係者	知人	親戚	合計
初回	7	1	1	1	2	2	2	1	2	19

※ 初回は、2件が重複

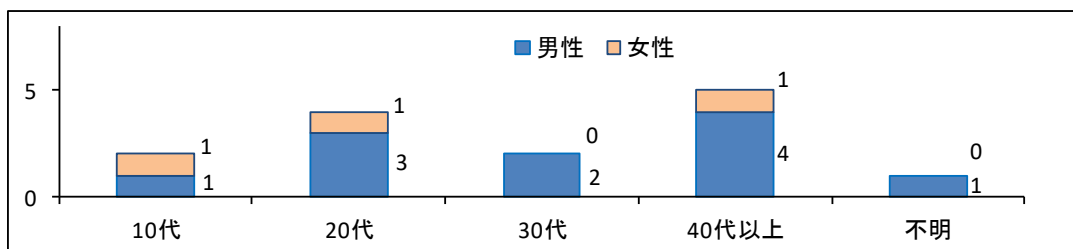
内訳 本人・妻・関係者(1) 弟・関係者(1)



⑦ 年代別男女別件数(16件中)

	10代	20代	30代	40代以上	不明	合計	%
男性	1	3	2	4	1	11	68.8
女性	1	1	0	1	0	3	18.8
不明	0	1	0	0	1	2	12.5
合計	2	5	2	5	2	16	
%	12.5	31.3	12.5	31.3	12.5		

※ まるめのために総計が100%にならない。



(3) 継続相談について

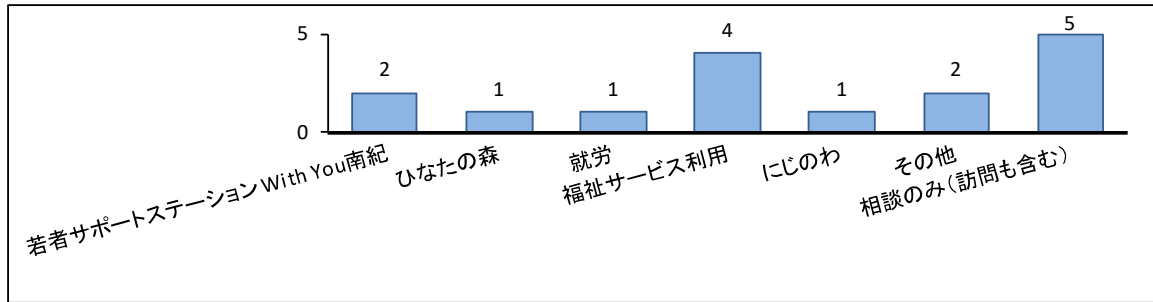
① 相談状況(重複あり)

若者サポートステーション With You南紀	2
ひなたの森	1
就労	1
福祉サービス利用	4
にじのわ	1
その他	2
相談のみ(訪問も含む)	5

※ 相談のみ(訪問も含む)は、
ひきこもり相談窓口の相談のみで
自助会や他の支援を利用していない方。

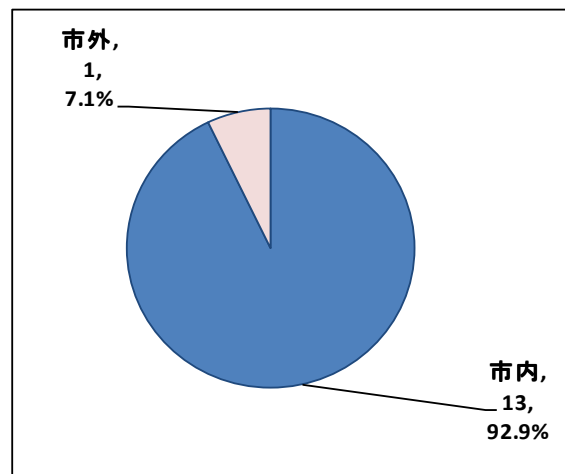
※ その他の内訳は、
ポラリス(1)
県外支援機関(1)

※ 医療機関を定期的に受診されている方は、
8件。



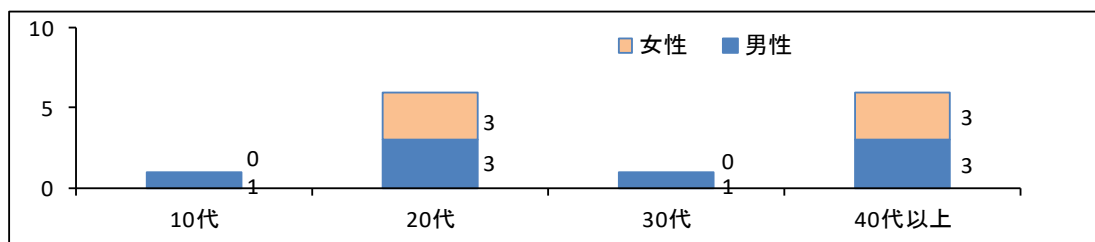
② 継続居住別(14件中)

	人	%
市内	13	92.9
市外	1	7.1
合計	14	



③ 継続年代別男女別件数(14件中)

	10代	20代	30代	40代以上	合計	%
男性	1	3	1	3	8	57.1
女性	0	3	0	3	6	42.9
合計	1	6	1	6	14	
%	7.1	42.9	7.1	42.9		



Ⅱ－2. 支援の報告

(1) 家族会(原則月1回)

ほっこり会(紀南地方ひきこもり家族の会)実績(平成16年4月より自主運営)
※ 参加者なし

(2) 青年自助会実績(原則月2回)

※ 参加者なし

(3) 啓発活動・視察・問い合わせ

○ 啓発活動

講演会案内チラシ配布
紀南六高校3年生、関係機関他
相談機関紹介チラシ配布
市内中学3年生、紀南六高校3年生

○ 実習

R3.8.11	東京医療保健大学和歌山看護学部 学生実習	2名
---------	----------------------	----

○ 問い合わせ

田辺市市民

(4) ひきこもり支援啓発講演会

主 催 : 田辺市ひきこもり検討委員会/田辺市/和歌山県子ども・若者支援地域協議会
共 催 : 若者サポートステーション With You 南紀
後 援 : 認定 NPO 法人ハートツリー/田辺市教育委員会
田辺市社会福祉協議会/田辺保健所/(公社)白浜・田辺青年会議所
紀伊民報社/(株)和歌山放送/FM TANABE
日 時 : 令和3年 10 月9日(土) 13:30~15:30
場 所 : 田辺市文化交流センター たなべる 2階 大会議室
演 題 : 「あきらめたらアカン！」
~幸せの風が吹いてくるような生き方を求めて~
講 師 : 学校法人田原学園 慶風高等学校 校長
田原 サヨ子 氏
参加者 : 60 名(ひきこもり検討委員・関係者・事務局含む)



【講演内容】

皆さん、こんにちは。ようこそお越しくださいました。『コロナなんで、もしかしたらリモートちゃうか。』なんて言われて。それだったら愛想なしやしなって、皆さんの顔を見せていただきながらお話させてもらいたいと思っていました。こうやって皆さんとお目にかかれることどれだけうれしいか、本当に心から幸せやなとそのように思います。

<はじめに>

さて、先ほど司会の方からもご案内ございましたが、私は本当にこの本(「あきらめたらアカン」)に書いてる順番からいきますとすごくおてんばだった。私はそんなことないと思ってるんですけどね。同級生なんかには比べたら「お前はたいがいおてんばや」って。「僕は小学校時分に大概サヨちゃんに泣かされたで。」ってよう言われる。そんなことない私は今でも思っているんですが、今うちにお手伝いに来てくれている電気工事する人やら皆さんが、「お前に小学校時代大概泣かされたから、『たのむで』と言われたら、『いや』ってよう言わんと『イエス』て言うて来るよってよく言われるんやけど、私結構おてんばだったと思います。

<幼少期からのお話>

小さい頃からの思い出から話しますと実家が八百屋でした。なんで八百屋だったかと言うと、父が昔は警察官やったんです。戦後、警察官だったんですが、子どもができて、昔は転勤がたくさんあったでしょ。あんなにあちこち変わるんだったらかわいそうやなって言うて、なんか商売始めようかって。戦後だったんで、食べ物屋が良いんちゃうかって言うて始めたんです。親戚一同大変心配しました。たまたま波に乗ったんでしょうね。今で言うたらスーパーマーケットの小さいの。野菜から始まってあらゆる物取り扱ってたと思います。そんな中に魚とかも扱っていたので、色んな魚を扱ってた。私、だから小学校6年生ごろからサバの三枚卸しなんて上手なもんでした。昔は秋祭りって言うたらさばの寿司、こころへんやったらさんまの寿司かな、やりますよね。ああいうのは上手なもんでした。

小さい頃に小学校入る時に、小学校で色々調べられますよね。「この花は何ですか」とか色々調べられて、魚の段になった時に、私旧姓『森見』っていうんですけどね。「森見さん、

このお魚なんていうの。」と言われて私は、「はい、鯛です。」と言うたらそこにいた先生が、「さすがやの。魚屋の子やな、よう知ってるやん。」って。その先生が続いてですね、「サヨちゃん、鯛なんてしょっちゅう食べさせてくれるんやろ。あんたんとこ魚屋さんやし」って言うてくれた。でも私は正直だったんです。「先生そんなことないで」って。「腐りかけやなんだら炊いてくれへん」って。「腐りかけるってどんなんよ」って聞いたら、「それは食べてみてね、ピリピリピリって舌がしたらこれは腐ってんのよ。」って。「それ以外は大丈夫だ。」って話して。「えらい変わった子来るんやな。」って言われたそうなんです。うちの母がですね、「お前恥ずかしいな。あまりにも正直に言うて。」って。でも、子どもは正直大事やから「ええやないの。」って思いましたね。だからそんなことがあって結構変わった子やおもしろい子やなって、かわいがってもらったんですが、おてんばが過ぎまして、私の実家の裏にお医者さんがあった。そこに立派な庭木があった。ヤマモモなんかしょっちゅうなるわけですね。わたしらおてんばな子らばかり男の子ら連れてそのヤマモモの木に登ってるわけよ。である時、その先生帰ってきた。その先生が実は学校の校医さんやって、私忘れられません。私の友達2人で木に登っていた時に、「コラ」と下からひしられて、どうしよう降りるに降りられやし、「弱ったな。」思って、必死になって降りて逃げたら「今度の身体検査に行った時に言うてやる。『イタズラもほどほどにせえ』って言うてやる」と言われて。子どもだから正直でしょ。それで私「いや弱ったな、困ったな。」って思ってたその次の年に身体検査が来ました。もうあの時はほんまに心臓破裂すんのかなと思ったぐらい心配した。「大丈夫かな、言われたらどうしよう。」って。今だったらそんなこと言うわけないって思うけど。あの頃はほんまに正直だった。心配で心配でその前の日なんか眠れなかったの覚えてます。それぐらい結構おてんばやった。

＜大学へ＞

私は本当にいろんなこと経験した中に、両親が結構弱かったもので身体が。母は隣の人が亡くなったりしたら自分のことのように心が病んで大変だったんですが、父親はこの近くの切目川の出身です。その父親が、昔戦争行ったときに手術やった。多分、腸炎、腸チフスやったんかな。その時の手術があまりにもえらかったんで、「絶対に手術なんか死ぬまでせえへんぞ」と思っていたのに、とうとう胃潰瘍になって手術せなあかんようになった。その時に輸血した血が悪くていわゆる「黄色い血」って売血ですね。あれだったんで、それで肝臓を患うことになって肝硬変になったんですね。そんなことで私は中学校時代、高校時代というのは本当に自分でもよう頑張ったと思いますよ。家の商売してましたから、店番しながらご飯を作ったりしながら、妹の面倒もみながらって、学校ずっと続けてきた。その時に親戚が集まって、この時代だからもう高校なんか行くのもやめて、とにかく家手伝えと言われたんやけど、私の母が「そんなことしたら私の夢も希望もなんもない。絶対に私は娘を高校行かすのあきらめへんで。」でここから始まった。高校行かせてもらった。もちろん家の事手伝いながら。でそこまで良かったんやけど、私は「大学行きたい。どんなにしても大学行きたい。」って。本当に少なかった今から 55、56 年前。大学行く人すごく少なかった。母も「大学てか。」、父親も。それこそ今度は親戚中が反対でした。お願いやから「入学金だけ貸して。この通りお願い。」って言うて。で大学へ合格したので行かしてもらった。私はこの当時からこうやと思ったら、「あきらめたらアカンなあって」。後になってわかったんですが、松下幸之助さんが「世の中成功する秘訣はたった一つや。」って。それは何ですかっていう話の中に「成功するまでやることや」、「あきらめたらアカン」って後で習ったんやけど、「そりゃそうやな」と思いましたね。

<大学生活>

それで大学生になりました。学生運動が華やかな頃で、学校行ってるやら、学生運動やってるやらなんやらわからんような時代やって。私らが何とか頑張らなくっちゃ世の中良くならないと思った。今から考えてみたらあれどうやったと思う感じするけれども。一生懸命に学生運動とクラブ活動、私は混声合唱団で合唱団に入ってた。後はアルバイト。一生懸命にこの三つをやった。一生懸命に3年間がんばった。はっと気が付いて4年になった時にめっちゃめっちゃ単位が残っていた。このままやったら卒業できやんって。ゼミの先生に呼ばれてものすごく怒られた。「だいたいね、ぼくとこのゼミ生でね、あんたみたいな初めてやで。普通の子は4回生になったら花嫁修業とかちゃんとしてるもんや。あんたいったいなんなんこれ。」って怒られた。私はね両親に内緒でしたからね、まじめにちゃんと学校行ってると思ってし。親だますわけにいかんし、ゼミの先生にはえらいおこられるし。じゃあ、「この1年間必死になって勉強しよう」って思って、4回生の時に一生懸命勉強しました。それが役に立って、私は無事卒業できたんですがっていきいたいけど。この時、和歌山大学始まって以来初めて卒業式がなかった。あまりに学生運動がきつくて。卒業式はなかったけれど卒業させてもらった。その時ですね、採用試験があって、大阪の試験受けに高等学校の受けに行ったら、高校の数学で女の子で受かったの私一人だったと思います。そしたら、ゼミの先生がやってきて、「森見さん、どうよ。合格したわ。」だから私は先生に思い切り言いました。「そうよ。私ちょっと本気出したらこんなもんよ。」って。ずっと言うて。卒業した後も言われました。そんなことがあって、学生時代は今から考えてみたら、学生運動とアルバイトとクラブ活動とこの3つで明け暮れてた気がします。だから卒業式もなかったし、今から考えてみたらあんまり大した学生時代じゃなかったなって思いました。

<念願の大学院卒業>

そこで後先になりますが、私還暦迎えた時に、60歳迎えた時に、「やっぱりなんか記念になあ」と。普通皆さんは宝石買ったりとか旅行に行ったりとかするんやけど、私はよう考えてみたらやり残していたことがあったと。それはどういうことかとやったら大学の卒業式に出ることやって。やっぱり着物着て袴はいて、ああいうのを絶対にやるべきだと思ってたので、何を思ったんか。私は両親に大学受けると言った時に、田舎でしたので、四年制大学に行ったのが私が初めてだったんですね。うちの父なんか頭が古くてね。「お前、あんまり大きな顔して道歩くんじゃないよ。」と言われた。「わしゃ恥ずかしくてよう言わんわ。大学通ったって。」大学院行きたいなんてとんでもない。で、ぐっとあきらめて就職したわけですね。60になった時にやっぱり大学院行ってみたいって思って私は大学院受けました。教育学に関するテストだった。「大学院行きたい、行きたいな。」と思ってて、これもやっぱり「あきらめたらアカン。」や。そしたら、「大学院ちょっと受けてみようかな」と家で言うたら、まず娘らは「お母さん、論文と作文間違えてるんちゃうん。」と言われた。夫は「何考えてんねん。あの世に行くのに大学院とかいるんか。」めっちゃくちゃ言われたけどあきらめられんなって思って。願書だけもらってきて。そして、今日で願書〆切やという日に事務局に申込みに行った。「あと1時間やね、大丈夫ですよ。」って受け付けてもらえると思ったら、「ところであなた英語で試験受けるの。それとも論文。」って言われて、「はい。私論文で受けます。」って言うたら、「千字以内だから書いたの持ってきてるでしょ。」と言われて、そんなん持ってきてないですからね。しゃあないから「英語で受けます。」って言うて。日が近づいてまいりました。なんて言うて家出ようかなって。猛烈な反対されてますからね。弱ったなってずっと思ってたんやけど。土曜日の昼からだった。「ちょっと近鉄へ買い物行っくらよ。」って嘘言うて出てきて、和歌山大学受けに来た。受けに来た時に、院ていうのはもちろんペーパーも大事なんだけど、面接がものすごく大事なんやね。面接受けた時に、先生が7人ぐらい座っていた。その時の先生

が「田原さん、大学院ら行くって言ってるけど、校長だったら忙しくて来れやんでしょ。」って。「先生、大変失礼やけど校長っていうのは憲法みたいなものやから私が右っていうたら右、左っていうたら左ですから。大丈夫です。必ず来れます。」って言うたら先生方が「パパッ」と丸をつけて「通った。」とその時思いましたね。おかげさまで無事通りました。修士でしたから2年間のつもりで行ったんですけど。その頃にちょうどうちの高等学校の許可が下りた。許可が下りたしまさか大学院ってわけにいかんから、1年間休学しました。2年生になった時になんとかして集中講義で徹底的に受けて教科オツケーしました。3年生の時に論文書かんなんな。一生懸命書き始めた時に、1月31日がメ切の時に、妹の旦那さんが大病患って大変だった。妹と二人姉妹なんで、「もうええわ。」と思って休学して、看病の手伝いに行かせてもらった。最後に4年生になった時に、もうまあ卒業せなあかんって、年金全部そこにつぎ込んでる訳ですよ。どうにか4年で卒業することができました。私実は大学院首席で卒業したんやで。なんでかっていうと体験から論文書きましたから。皆さんは本から書籍から書くのでそれが良かったんかな。それで卒業式出ました。ということで、実は着物着て行こうかなと思った。周り見たら若い子が華やかな袴はいて。悩みに悩んでとうとう服着て行きました。あきらめて服着て卒業式させてもらいました。これが私の大学院卒業したことですね。

<慶風高等学校開校までの道のり>

それから、学校の話。学習塾ずっとやっていた時に、ある時に「先生、今、若い子おらん。なんとかしてコンピューターできて、英会話ができて、マナーできて、こんな子なんとか育ててくれへんか。」って言われた。よく調べたら当時は92%の高卒生徒が県外に出て行ってしまっていた。わずか8%しか残っていなかった。そんな言われたんで、「いいですよ。」って。その3つを習う塾を始めた。皆さんにコマーシャルしたら、ゼロやった。ある友達に聞いたら、「履歴書になんぼなんでも塾の卒業って書かれへんやろ。」って。ある人が「そやのうて。学校作ったらどうや。」って。それまで学校なんて考えたことありませんでした。「そうやな、学校がいいな。」と思って。「学校ってどこ行ったら許可くれるんかな。よう考えたら県庁かな。」って。県庁の受付に行ったら、「学校作りたんですけど、どこ行ったらいいですか。」て聞いたら、「県立の学校ですか、私立の学校ですか。」って聞かれて。「私が作るのやったら私立の学校やろ」っていうふうにして、総務学事課っていうところに行かせてもらった。子どもが減ってきてますからね。そんなことさんざんありえんわって。宗教法人とか学校法人とかバックの全くないただの一介のおばちゃんだったんで。「そんなあかん。」って言われて。ここが私のえらいところやろって思ってるんやけど。2時間ぐらいかかって、「この私の思ってること認めんかったら和歌山はつぶれるで。」ってたいそうな事をいろいろ言いまくって。「ありがとうございました。」って帰ってきた。そしたら明るく日県から電話かかってきて、「1回県庁出てきてください。」って。行ったら「各種学校っていう専門学校それだったらあなたの思っていること考えてみたらどうや。」って言うてくれて、アークビジネス学校ができた。今は国際アークビジネス学校と言います。

皆さん何をするんでも次の事考えなあかん。ただ許可おりただけでは生徒なんか集まってこない。生徒来やへんし、高校卒業の子らって来るはずやのに、全く来なかった。やっとこさの思いで5人ほど集まってきた。それはなぜかと言ったら、前の時は木造で塾やってたから、それは建物が悪いからビルでも建てて。それで何億という借金をして田原ビルを作りました。作ったけれど生徒はすっとこ来ないし。そのころ学習塾が流行ってんたんでどうにか補てんしてきたんです。それでビジネス学校ができた。私大学のある先生に「もうあかんわ。」って話したら、「そんなことないで。」って。「アメリカのハーバード大学はね、たったの5人で始めた。ミセス田原、5人は縁起のいい数よ。」って言われて。先日もその先生に出会った時に、「僕言うたでしょ。5っていうのはすごくいい数字なんよ。」

いろいろやってるうちに、ヘルパーさんの講座やらななと思って。介護保険ができるちょっと前。それはですね、私はどこへ聞きにいったら、「よし、厚生省に1回行ってみよう」と思って、一人で厚生省に行きました。守衛のおじちゃんに「実は私、ものすごい田舎から出てきてんけど誰か紹介してくれんの。」って聞いたら紹介してくれた。そしてその人にお話聞いたら「介護福祉士の学校はいっぱいになってきている。ヘルパーさんの学校作りな。」って言われて。県にもって行った時に県がどう考えるかわからないから、「あなたの名刺ください。」って名刺もらって帰ってきた。それからヘルパーさんの養成できる各種学校になってきた。

初め頃はすごい人気があったんです。ずんずんずんずん人気がなくなってきて、ある人に「専門学校だけちゃうでできたら高卒資格もとれたらどうよ。」って言われたんです。「高卒資格ってそんなんとれることがないじゃないの。」って聞いたら、「そんなことないで。」って言われて「じゃあどないすんの。」って聞いたら、今でいうダブルスクールやな。うちがサポート校になるやつやな。かなり苦労してやりかけたんやけど。通信高校っていうのは1番大事なのはスクーリングって言うて、対面授業を受けなければいけない何日か。それからレポート、あとはテスト、この3つが大事なんやけど、一番ネックになったのがスクーリング。たまたま私たちの生徒は台風に遭遇して行けなくなった。こんなことしてたらだめやなと思って新しい学校探そうと思ったのが今の学校の始まりで、大阪の茨木のところに向陽台高校というのがあると思うんですが、そこに仲間に入れて頂いてそれが今の高校のスタートです。

病院に実習行ってた時に、「あんたらどこの学校よ。」って聞いてもらって、「田原学園です。」って言うたら、紀美野町から陳情書頂いて、これが学校の始まりです。実はその前にここの田辺にもご縁があって、今の市長さんが中辺路の町長やった時代に「1回学校見に来てほしいよ。」って言われて見に来たんですが、ちょっと古すぎてご縁がなかった。その次は古座川も行かせてもらったけどダメやった。うちの方は紀美野町がまだ美里町という時代に陳情書を持ってきてくれて、私も「わかりました。」その時に町長さんと教育長さんがやってきて、「先生途中でやめたらあかんで。絶対にちゃんとしてよ。」って言われて、こんなにハードル高いものやと思わなかったの、「いいですよ。」って二つ返事で約束した。高等学校は一条校て言うて学校法人を作らなあかん。専門学校とはわけが違う。どんだけ苦労したことか。県の行政の方たちも初めてやし、「先生、二億円無かったら高等学校作れやんで。」って言われて。「建物あるし、先生って言うても、変やな。」と思って、「よし、これではダメや。」と思って、文科省に乗り込みました。また守衛の人に頼んで会わせてもらった。そしたら出会ってくれて、よく聞いたら「お宅短期大学作るんですか。2億円は短期大学のお金ですよ。」って言われて。腹が立って、公衆電話探して県庁に電話した。「ちょっと県民だますにもほどほどにして。」その人が「先生怒ってやんと、帰ってきて県庁来て。」と。みんなが一生懸命やってくれて、本に書いてますとおり「あきらめたらアカン」そういうことです。そういうことが今の高等学校のベースになっています。詳しくは本を読んでください。

＜いくつかの事例＞

せっかくの機会なんでどんな子が卒業していったか。印象に残っているのは3人ぐらいいて。高等学校の許可下りたとき、3月の10日ぐらいだったと思うんやけど、やっこさの思いで来たのが3人か4人。そんな中に、保護観察付きの子も来てた。その子は卒業して今大きな会社の経営者になっている。本人曰く「自分の子どもが僕みたいになったら悪いんでちゃんと教育してます。」って。その子がほんまに悪いことするわけよ。無免許で單車乗り回すわ。先生らは職員会議する、どうするかって。でも結論出ないわけよ。最後に「この子どんなして来たと思う。」って言うて、「こんなもんやろか。」って言うて職員会議終わったの覚えてます。

その次は幼稚園から不登校になった子。22歳まで不登校になった子。毎日家で本読んでたって。その子が何でうちに来るようになったかって。ハッと気付いたら友達らみんな大学

行って就職してた。自分もこんなことしてたらあかんと思って、車の免許取りに行ったときに「高校出てないと取れませんよ。」って言われて。ぼろぼろのジーパンはいてすごい恰好で来た。髪が腰ぐらいまで伸びていて。「うちに来るんだったらきちんとした格好で来てください。」って言うたけど。長いこと返事なかって、ある日髪を切って、うちに来た。「どうしたん。」って聞いたら、「色々考えたけど、こんなことしてるときじゃない。自分で目覚めたんや。」って言うて。それから猛烈に勉強が始まって、英語もマスターして、和歌山大学の経済学部に入學した。その時私が思ったのは本人がその気にならないと。お母さんに聞いたら、「結果オーライやけど、どんだけ苦労したか。家を引っ越したら良くなるんやろか。病院の先生に聞いたり、運勢から始まってあらゆることを見てもらった。私はどれほど苦労したことか。」周りが大変だったと思うんです。その子もちゃんと一人前になって、結婚してお父さんになっている。だから子どもって「絶対あきらめたらアカンなあ。」って思います。

もう一人は中学校時分から運動がとびぬけた子やった。一生懸命にやってたけど、駅伝かなにか出た時にうまいことならんでショック受けて学校行かれへんようになった。ひきこもって。先々心配してしまう。「僕はどうなるんでしょうね。」「そんなん心配せんかてあなたは一人前になったらいいやんか。」でその子は卒業して今は超大手の営業部長になっている。うまいことになったなと思いました。

もう一人は、中学校の隣の子が不登校になった。チャイムも聞こえるけど絶対に学校に行けへん。高校入ってきても初めの2か月ぐらい毎日休む。来たり来なかったりする。本人に言うたら「中学校時学校行ってなかったんで。学校行ってていいんかなと思って。やっぱり学校行かなあかん。」って学校行きだした。無事に卒業して九州の方の大学行きました。ちゃんと卒業して家の仕事継いでる。どの子もこの子も違うなという感じがします。

今度は女の子。不登校のお子さんって二通りあると思います。一步も外へ出れないような不登校のお子さんもいれば家に寄り付かない不登校の子もいてる。今は立派なお母さんになっている。「学校へ行ったら、目の前に校門の前で黒いすだれみたいなのが下りてくる。一步も動けない。」てそんなこと言うた子いてた。「そんなんやったら、ぼちぼちやろら。」学校側だったら「ぼちぼち」って言える。

もう一人の子はお母さんとも折り合い悪いし。今こそ携帯有りますけどその時代はないですからね。うちの子とどこ行ったかわからん。「卒業したいんか。」って言うたら「したい」て言うから、「レポート出さなあかん。」「お母さんとかみんなに相談しなよ。」て言うたらお母さんと合同で作品出してきた。お母さんも一生懸命協力した。ちゃんとレポートできて学校持ってきて、スクーリングも受けてテストも受けて卒業しましたけれど。お母さん喜んでた。「おかげですっかり娘とも打ち解け合うことができた。それがすごいうれしかった。」

色んな子卒業した中に、40歳になってうちの学校来た男の人がいてた。「どうしたの。」って聞いたら、「高校1年の時にクラブの先生ともめて腹が立ってやめた。自分の子どもが高校受けるような時になってきたら、『お父さんどこの高校行ってんの。』って言われた時に『あのそのその…』って言えやんからってやっぱり高校出ておかなあかん。」って言うて。それで頑張ってきて卒業して通信の大学も行った。「あの時辞めやんと続けといたら良かった。」それは言うてた。

<最後に>

百人いてたら百通り、十人いてたら十通りやけど、皆それぞれの状態があって一概に不登校の子やと言うてこんなもんやと決めることはできない。それぞれの子の話をよく聞いてあげる。「もう学校なんて辞めてまえ。」って言うたら、今の子は「はい」って言うて辞める。「今日はもうここまでにしとこか。続きは今度話しか。」って。そこできちっと決めてしまったら、イエスかノーかで決めてしまったら、後からになって、そんなつもりで言うたんちゃうで。「お父さん、お母さん言うたやないか。」ってなるから、ここで一旦話を止める。夫婦の間の

話でもそう。「ここまでにしとこか。続きはまた今度。」てせなんたら「辞めた」ってなるから。それが困る。お子さんはお二人の作品なんだから、「お前が悪い。」、「あんたが悪い。」言うても始まらへん。どうしたらいいか。今はネットとかいろんなものできている。いっぱい質問来ます。

もうひとつ、「e スポーツ」これからの時代。一番家の中にひきこもってるお子さんでも e スポーツやったら出てくる。e スポーツは国体の競技でもあるし、そのうちオリンピックの競技にもなるだろうと言われている。私たちが考えている以上に世の中進んでますから。

公立の学校の合格率ってどのくらいか知っていますか。定員 100 人に定員 82.3 人。絶対に入りやすいのわかっている。そやけども、「やっぱり合わなんだ。」って言うて辞める、帰ってくる子多い。県下、私立の学校から全部来ている。その子ら人生新たに切り開く。途中で辞めてそのままにしてもたらアカン。「必ず続きやりなよ。」って言う。お時間ありませんが南の方で特に思うのはこれから先は観光の時代。子どもたちにはものすごく可能性がある。これをしっかり覚えてほしい。せっかくのご縁ですから聞いてみたいよってことがあったら遠慮せんと連絡ください。全国からいろんな方から質問が来ます。何度も言う通り「あきらめたらアカン。」この通りです。最後にお父さん、お母さんは「お前の事あきらめてないで」って。「なんでそんなこと言うん。」って言われた時、「親子やもん。」、「兄弟やもん。」って言うてください。絶対何度も申し上げるとおり「あきらめたらアカン」今日はその一言をちゃんと胸に秘めておいてください。幸せな風が吹いてくる。私もあきらめた事 1 回もない。まだまだやる。死ぬまであきらめへんで。皆さんも絶対あきらめたらアカンで。ご清聴ありがとうございます。

(5) 田辺市ひきこもり検討委員会(令和3年度)議題

(出席者はひきこもり検討委員の人数)

第 1 回(R3. 4. 24)	第 2 回(R3. 10. 23) 出席者 25 名
- 新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止のため中止。 - 議事 - 令和3年度 ひきこもり検討委員会 委員長並びに副委員長選出 - 令和3年度 ひきこもり検討委員会 小委員会委員選出 - 令和2年度 事業報告 - 令和3年度 事業計画 ※ 議事は、書面決裁で承認。	- 令和3年度 上半期事業報告 - 令和3年度 下半期事業計画 - 講義 『小中学校の長期欠席・不登校 について』 田辺市教育委員会 学校教育課 上木原 浩之 氏 

小委員会(令和3年度)議題(出席者はひきこもり検討小委員の人数)

第 1 回(R3. 5. 20) 出席者 10 名	第 6 回(R3. 11. 18) 出席者 11 名
- ひきこもり検討委員会書面決裁 について - ひきこもり支援啓発講演会について - 小委員会の予定について	- ひきこもり支援啓発講演会について - 高校報告 - ひきこもり支援施策の推進について
第 2 回(R3. 6. 17) 出席者 10 名	第 7 回(R3. 12. 16) 出席者 10 名
- ひきこもり支援啓発講演会について - ひきこもり支援施策の推進について	- 令和4年度 ひきこもり支援啓発講演会 について - 支援の報告
第 3 回(R3. 7. 15) 出席者 9 名	第 8 回(R4. 1. 20)
- ひきこもり支援啓発講演会について - ひきこもり検討委員会について - 支援の報告	新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止のため中止。
第 4 回(R3. 8. 19)	第 9 回(R4. 2. 17)
- 新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止のため中止。 - ひきこもり支援啓発講演会について - ひきこもり検討委員会について ※ メールで資料、送付。	新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止のため中止。
第 5 回(R3. 9. 16) 出席者 8 名	第 10 回(R4. 3. 17) 出席者 9 名
- ひきこもり支援啓発講演会について - ひきこもり検討委員会について	- 令和4年度 ひきこもり支援啓発講演会 について - 令和4年度第1回ひきこもり検討委員会 について - 令和4年度 事業計画について - 支援の報告

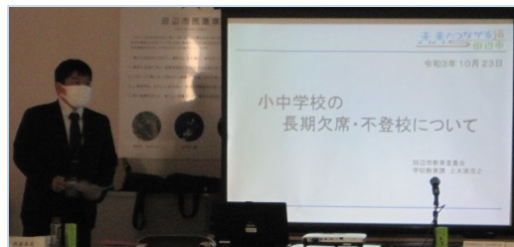
(6) ひきこもり検討委員会 講義

『小中学校の長期欠席・不登校について』

講 師： 田辺市教育委員会 学校教育課 上木原 浩之 氏

日 時： 令和3年 10 月 23 日

参加者： 34 人(事務局含む)



<はじめに>

まず初めに、田辺市教育委員会として捉えについてご説明します。

田辺市教育委員会としての捉え（令和3年度学校教育指導の方針と留意点より）

5. 生徒指導を充実して、子供たちが楽しく学べる学校をつくる

- (1) 生徒指導の理念の周知
- (2) 学校と家庭・地域とが一体となった生徒指導体制づくり
- (3) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成
- (4) 児童生徒の問題行動とその指導
- (5) いじめ問題への適切な対応
- (6) 不登校への適切な対応と支援**
- (7) 教育相談の充実**

田辺市の学校教育指導の方針には「生徒指導を充実して、子供たちが楽しく学べる学校をつくる」というのを掲げております。その中に7点項目がありましてそのうちの3番から7番が不登校に関わる部分になります。基本的生活習慣の確立、非行等の問題行動への指導、いじめ問題への適切な対応、不登校への適切な対応と支援、そして教育相談の充実が挙げられております。

これらの課題は、どの学校でも起こりうる課題であり、家庭や地域との連携無しでは、対応できないと考えております。今回は「ひきこもり」について最も関連性の高い課題として、長期欠席・不登校についてお伝えします。

<1. 不登校・長期欠席者とは>

よく休んでしまう子供を長期欠席者と分類します。文部科学省 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査では長期欠席の理由の中に、不登校が含まれているという考えです。

長期欠席の理由には、「病気」、「経済的理由」、「不登校」、「新型コロナウイルス感染症の感染回避」、「その他」の5つに分類されます。

不登校は、誰にでも、どの学校でも起こる可能性があります。長期欠席とは年間を通じて、累計30日以上欠席をした状況を表します。そのうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因を背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状態にある者を「不登校」としております。このように、不登校とは長期欠席者の中に含まれている分類がされております。

<2. 全国・和歌山県・田辺市の状況>

田辺市では昨年度は小学校で1,000人に9人程度、中学校では1,000人に18人程度になります。田辺市の不登校児童生徒の割合は、小学校では全国よりも下回りますが、県との値とはほぼ同じくらいです。中学校では全国、県の値よりも下回っており、不登校児童生徒は、全国的には少ないとみることができます。

全国的には、小中合計の不登校児童生徒の割合は上昇傾向にあり、和歌山県も全国平均よりは低いものの上昇傾向にあります。田辺市は、平成26年度から29年度にかけては減少しておりましたが、ここ3年間ににおいては上昇傾向にあります。

田辺市の児童生徒数は、およそ5,000人強に推移しておりますが、少子化により、年度ごとに、約100人近くの児童生徒が減少しております。田辺市の長期欠席者の人数は、およそ毎年100人くらいおり、そのうち、不登校生徒は約60人になっています。年度によって多少変わりますが、この人数は変化していないため、分母が減っているため、不登校児童生徒の割合は上昇してきております。

小学校と中学校を比べると、中学校の方が、不登校生の割合が大きくなっています。学年が上がるにつれて、増える傾向があります。不登校生とは中学3年生が最も多く、小学1年生が最も少ないこととなります。毎年、年度初めは少ない状況になります。中学3年生が卒業するたびに、一旦、長期欠席者は減ります。しかし、年度末には、その割合が高くなる傾向があります。

つまり、これまで長期欠席者ではなかった子供が新たな長期欠席者になっているため、その割合が減らない状況になっています。現時点での長期欠席者になっている子供は段階的に、学校復帰させるとともに、新たな長期欠席者、不登校生を作らない、作らせない取組が重要であると考えられます。

<3. 各種マニュアルや調査資料の活用>

・スクリーニングシート

全ての児童生徒を対象として、入力項目を記入していき、問題の未然防止のために客観的なデータに基づき、潜在的に支援の必要な子ども、家庭に適切な支援を識別するための取組です。ケース会議の資料として、担任、生徒指導、特別支援コーディネーター、養護教諭、SSW、SCなど異なる視点から支援の方向性を見いだすことができます。

活用することで、学校だけでの支援ではなく、行政やSCなど、教育だけでなく、子育て、心理、身体面のサポートが識別できることとなります。

・不登校問題対応の手引き、不登校対応マニュアル

次に和歌山県教育委員会が作成している「不登校問題対応の手引き」、「不登校対応基本マニュアル」です。全教職員に配布しており、いつも手の届くところにおいておくよう指導し、日常的に確認することを進めております。内容的には、対応事例や、対応の流れ、確認しておく必要事項などが明記されております。また、年1回、このマニュアルを使った研修を各学校で取り組むように指導しています。

・累計5日以上欠席した児童生徒の個人状況・学校対応状況シート

県が中心になっている取り組みである欠席累計5日シートです。欠席を5日以上した児童生徒が対象に各校で作成します。欠席が断続的であったとしても、傾向をとらえることができます。休んだ日付や曜日も入れられたりするシートになっています。小学校1年生からの資料になるので、引継ぎ資料として、過去の欠席状況等を把握することができます。

過去の欠席理由や、家庭への対応等、長期欠席にならないようにするための個人情報として使っています。

・QUアンケート、いじめアンケート

続いて QU アンケートになります。これは、田辺市内の小学4年生以上を基本に行っているアンケートになります。多くの学校で、1学期半ばぐらいにアンケートを行い、夏休みの研修に活用しております。アンケートにより、個別の対応や学級の雰囲気などを客観的にとらえることができます。先生方も全ての子供をいつでも観察することができず、子供たちの心の状況を完全に把握することができません。元気にふるまっていても、見えていないところで満足していない子供もいます。表面的な部分だけではなく、子ども自身が答えたアンケートにより、客観的なデータとして、子どもの状況を把握できます。日頃の生活などでは見えてこない心理的な課題をとらえることができ、面談などを通して、子供の悩みを早期発見することにもつながります。

また、学級全体の課題を把握することができます。子供が、どの群に多く属するかを知ることができ、学級運営についての改善に努めることができます。クラス別、学年別が学校は把握することができるので、より良い状態に運営されている学級を参考にすることができます。友達関係であったり学級の雰囲気であったり学習意欲についてもとっています。インターネットで嫌がらせを受けていないかも取っています。そういったことも1学期の半ばぐらいに情報として得られるアンケートになっています。これらのアンケートや観察に加えて、学期に1回以上のいじめアンケートの実施を行うよう指導しています。

いじめアンケートでは些細なことであっても、嫌だと思うことを聞き取り、解消に向けて取り組みます。いつでも、困ったことを聞き出せるような教員と子供の関係を構築しつつ、これらの調査から課題の解決に取り組んでいます。アンケートは子供たちの状況を知るための生きた資料として、研修、分析に活用し、新たな長期欠席者を生まないように取り組んでおります。

<4. チーム学校と関係機関との連携>

学校だけでは対応しきれない部分はたくさんあって、最近では「チーム学校」という言葉が良く使われます。生徒指導をする上で、学校、家庭、地域の連携は必要不可欠であるとなっております。今後は、更に、学校には教員だけでなく、それぞれの専門家との連携が必要であるとされております。学校と家庭が連携する必要があって、子どもを育てるという上では学校と家庭が同じ方向を向かなければならないのかなと思います。

学校には教員だけでなく、それぞれの専門家も配置されています。学校職員として、SC(スクールカウンセラー)の配置を行っております。大規模学校では2週間に1回程度、中規模学校では1か月に1回程度、小規模学校では拠点校方式といって中学校に1人配置されるというくらいの割合でSCが配置されています。SCは子供や家庭、また、教職員の心理面での相談に対応してくれています。

SSW(スクールソーシャルワーカー)は、福祉面での支援をどのようにすれば良いのかなどケース会議などを通じて助言してくれております。今後、更に必要だと考えられる学校職員です。

また、問題が起こった時には、教育研究所、青少年センター、警察、児童相談所などの関係機関と連携をとりながら、課題解決に取り組んでいます。

特に、不登校やひきこもりに関しては、教育研究所での適応指導教室、ふれあい教室では、学校復帰に向けた支援を行っております。適応指導教室・ふれあい教室は、学校に通いつらい児童生徒、集団が苦手や発達による課題を持った児童生徒が対象になっています。

ふれあい教室は、居場所づくり、学校復帰に向けた支援を行います。不登校児童生徒は、家から出ることが第一歩であります。いきなり、学校という環境では、集団が苦手であったり、騒がしかったり、決まりを窮屈に感じたりします。そのような要因で解消するために、適応指導教室でポスター作りなどの創作活動や読み聞かせ、ALT の外国語活動、卓球など軽ス

スポーツ、月初めの会やお誕生日会などの行事などもおこないながら、集団生活に慣れていきます。また、学習活動も子どものペースに応じて、指導員が付き添いながら支援しております。その様子や出席状況は在籍校と連携を取ります。自信がでてきた子供の中には、学校復帰をする子供もいます。

学校では、通常の学級以外にも別室対応をしている学校もあります。不登校児童生徒支援員や訪問支援員など配置されている学校もあり、個別の対応を行い、家庭だけでなく、できるだけ社会とのつながりを持つよう取り組んでいます。

また、適応指導教室は、入試などを控えた中学3年生とその他の学年の午前の部、午後の部の2部制で、月毎に入替をしております。

<5. 不登校への適切な対応>

5点目、不登校への適切な対応についてです。新たな長期欠席者を作らないということも大切ですが、現時点で、長期欠席者になっている子どもへの対応についても、教頭会、校長会等を通じて、研修をしております。

学校として、どのようにすれば、その子供が学校復帰できるかを、長期的にまた短期的な目標を作ることで少しでも前向きに登校につなげるようにしていきます。家庭と方向性が一致しないとなかなか困難であると考えます。

学校としては、学年としての見通し、卒業までの見通し、卒業してからの見通しを家庭と連携し、子供の将来の方向性を確認していく必要があります。

不登校の問題は根気強い取組が必要です。子供が一つでも社会に出てから必要となる力をつけるために、家庭との連携をして、見通しを持たせることが大切であると伝えております。

新たな長期欠席者を作らない取組を重点的にお願いしております。休みはじめたり、異変を感じたりしたら、SSW等に状況提供し、アセスメント、プランニングをお願いしております。不登校に必ず原因があります。これまでの学校生活や家庭環境などの情報を集め、原因となる部分に支援ができるよう、関係機関と連携していかなければと考えております。その原因を考える上での視点として、学校にはお願いしていることがあります。1点目はBPSの視点を持って、アセスメントをするということです。

Bはバイオロジカル、生物学的に、起立性調節障害などの体調面ということであれば、医療関係を勧めることがあります。Pはサイコロジカル、心理的に支援が必要であれば、SCなどや適応指導教室などにつなぐようにしております。Sはソーシャル、社会的に経済的な支援であったり、家庭環境に課題があったりする場合は、福祉関係と連携をとるようにしていくなど、

学校だけではできないことは多くありますので、それぞれの専門家に協力をしていただき、より良い生活ができるように、子供たちをサポートできるようにしています。

<6. 不登校・長期欠席に陥りやすい状況>

6点目は「不登校・長期欠席に陥りやすい状況」についてです。

まずは、連休です。5月の連休は特に、5月病とも昔から言われ、初めのエネルギー切れをするタイミングです。大人であっても、休みが続くと、仕事に出るためには気合がいると思います。連休が明けてから、何を目標にするのかが明確でないと、子どもは不安を感じたり、面倒さを感じたりすることがあります。宿題ができていないなどの理由で学校を休むという子供もいます。

登校してきた流れが切れることで、長期欠席の一步になります。同様に学期の節目も同

じです。登校日や補習などをうまく計画することで、学校への気持ちが途切れないようにする必要があります。中学校では部活動に参加することで、学校とのつながり、友人とのつながりを途切れないようにします。

予兆や原因に気づけていると復帰は早いと考えます。原因ときっかけは区別する必要があります。BPS が原因となります。休み始めるのには、きっかけがあります。友達とのいざこざ、家庭環境の変化、失恋、ケガなど、きっかけは様々です。緊張の糸が切れる瞬間なのかもしれません。その時、いかに早く、そのきっかけを改善、又は納得させるか、そして、前を向かすことができるかが長期欠席を止めるポイントになります。それを見誤ったりすると、復帰には時間がかかります。時には、本人もなぜ学校へ行けないかわからないということもあります。

最近、不登校のきっかけになっているのには、ネット依存です。ICT の活用は急速に低年齢化をしており、大人が思う以上に、子供たちにとって ICT のハードルは低くなっています。アプリには年齢制限があります。守られていない部分も多くあります。

ゲームはオンラインで世界中とつながっています。もしかしたら、日本のチームではなく、海外のチームとつながっているかもしれません。日中だけでなく、深夜まで 24 時間使い続けることができます。昼夜逆転によって、心身の異常をきたすことにつながります。昔は、非行の一つに深夜徘徊がありました。現在では、ネットの中での深夜徘徊が起っています。部屋で静かにしているからと言って、ネットの中ではうろうろして、基本的生活習慣が乱れてしまい、学校に来ることができなくなることも出てきます。

そして、最後に、未来への方向性の相違とさせていただきましたが、教育というのは将来、未来をつくる分野となります。子供と家庭と学校とで、未来への方向性の相違が生まれることで、長期欠席、不登校の改善が困難になります。

学校は、社会に出るまでの練習として、いろいろな経験をする場になります。学習も、運動も、学級会も、生徒指導も社会に出た時に、大人の力だけでなく、自らの力で社会生活ができるようにするためのリハーサルであると私は考えます。

田辺市教育委員会では、「未来につながる資質・能力の育成」と「学社融合活動の内容充実」の 2 本柱で学校教育の推進を勧めております。つまり、未来を生き抜くための力をつけていくことと、学校教育だけでなく、社会教育とのつながりを大切にしていることとなります。子供もいずれ社会に出ていくんだという見通しと、家庭も社会に出していかなければならないという見通しを持って、子供たちの成長を支援していかなければならないと考えます。

<7. 今後の課題>

7 点目に不登校・長期欠席への対応の今後の課題についてですが、これまでの説明させていただいたことをまとめました。

まずは、新たな長期欠席者を作らない。これは、不登校の抑止だけでなく、ひきこもりの防止のきっかけにもなります。学生時代にひきこもりになるきっかけをつくらないことが重要であると考えます。

そして、アセスメント能力の向上です。きっかけとは別に、原因となる部分を分析しておく必要があります。早めの対応、支援を考えておくことで、早期解決につながると考えます。問題が起こる前にチェックしておくことが必要です。

適材適所の支援体制です。BPS の視点から、学校だけでは困難である支援を専門機関の協力とつながりを作ることで、効果的な支援につながると考えます。また、学校だけでなく、支援機関と連携していくことを学校職員にも周知し、最後に、家庭への啓発です。

学校や関係機関だけでは、やはり不十分な部分があるかと思います。子供のよりよい未来を願って、育て上げることについて、家庭にも意識してもらい、学校生活ということだけで

なく、将来、社会に出る子どものために、教育と支援を受けさせることを家庭にも啓発する必要があると思います。

多様な家庭環境、価値観、社会情勢により、予測困難な社会にもなっております。幼稚園や保育園、そして、学校が子供たちにとっては、社会生活のはじまりです。社会に出るためのリハーサルとして、人との関わり方を学び、生き抜く力を身に付けて、自分自身を知ることなどが学校生活の大きな役割であると考えます。ひきこもりの前段階とも考えられる、長期欠席、不登校を作らないことが学校としても課題を考えております。

今後も、様々な関係機関と連携を取りながら、安心して安全な学校生活ができるよう取り組んでいきたいと教育委員会としては思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上で、報告を終了したいと思います。ありがとうございました。



III. 參考資料



家から **こども** が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか

ほっこり会
(ひきこもり家族の会)





認定 NPO 法人ハートツリーは
生きづらさを抱える人たちの未来への一步を応援しています。

生きづらさや課題を抱える人の相談や、安心して過ごせる「居場所」づくりから、
就労支援まで、社会へと飛び立っていくための緩やかな歩みを私たちは全力でサポートします。

ひきこもりサポート事業

「外へ一歩踏み出したい」「誰かと話をしたい」
そんなときに気軽に立ち寄れる『居場所』がここにあります。
相談・訪問支援・社会体験活動・レクリエーションなどを行っています。



ひきこもりサポート事業

ひなたの森

認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



ひきこもりサポート事業

あづまプラッツ

認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



【ご利用日時】月～金曜 /9:00～18:00

(居場所は13:00～17:00まで)(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org



【ご利用日時】月～金曜 /9:00～18:00

(居場所は13:00～17:00まで)(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒647-0073 新宮市木ノ川169-3

【TEL・FAX】0735-31-7740 【E-mail】platz@heart-tree.org

学習支援事業

ひとり親家庭の子どもや不登校生の学力向上と、様々な課題に寄り添います。



田辺市子どもの学習支援事業

「ひなた塾」

■小学生(4年生～)、
中学生、高校生(定時制・通信制)

【時間】学年によって時間が異なります

【受講料】無料



子ども食堂

「ひなた食堂」

■月1回 第4火曜日

■ひなた塾受講生

【時間】18:00～

【料金】1回100円



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org



就労準備支援事業

和歌山県・田辺市就労準備支援事業

認定 NPO 法人ハートツリー

heart work

ハートワーク

利用
無料

ハートワーク（就労準備支援事業）で

「働く」ための「準備」を 始めてみませんか？

認定 NPO 法人ハートツリーでは、

働きたいけど何から始めたらいいのかわからない方や様々な不安を抱えている方のために

「働く」ための準備の場を提供しています。

ご自身の課題や困りごとなど 1 つ 1 つクリアしながら私たちと一緒に取り組んでいきませんか？

まずはご相談ください。

「長期間働いていない」「コミュニケーションに自信がない」
「働く自信がない」「働くのが怖い」
など、働くことに悩みを抱える方
「働きたいけれど生活のリズムが崩れている」
「働きたいけれど体調に不安がある」
など、日常的な不安や悩みを抱えている方



「働く」ことの自信へと繋げる訓練の「場」

ハートツリー菓子工房

〒646-0028 田辺市高雄一丁目 23 番 1 号

田辺市民総合センター北館

【定休日】土曜・日曜・祝日【TEL・FAX】0739-33-7850



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org





南紀若者サポートステーション

(厚生労働省受託事業)



「就労」に向けたそれぞれのステップアップを応援します。



写真はイメージです

15 歳から 49 歳までの若者への就労支援

「働きたいけど働く自信がない若者への支援」

「働いていない期間が長いので就職できるか心配」

「どんな仕事が自分に合っているのかわからない」

「対人関係が苦手で就職活動がづらい」など

職業的な自立のためのご相談を受け付けています。

相談の他にも、就職に役立つセミナーなどを開催しております。



【ご利用日時】 月～金曜 /10:00 ～ 18:00 (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 田辺市高雄一丁目 23 番 1 号 田辺市民総合センター北館

【TEL】 0739-25-2111 【FAX】 0739-25-0085

【E-mail】 nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp

【HP】 <http://www.nanki-saposute.jp>



串本サテライト

【ご利用日時】 水・木・金 /13:00 ～ 16:00 (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫 27 (旧) 養春小学校 2 階 5・6 年生教室

【TEL】 0735-67-7172 【FAX】 0735-67-7173



新宮サテライト

【ご利用日時】 水・金曜 /11:00 ～ 16:00 (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒647-0073 新宮市木ノ川 169-3

【TEL・FAX】 0735-31-7740 【E-mail】 platz@heart-tree.org



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】<https://heart-tree.org>



若者サポートステーション WithYou 南紀

サポステ
地域若者サポートステーション
和歌山県委託事業

サポステ
地域若者サポートステーション
和歌山県委託事業

サポステ
地域若者サポートステーション
**若者サポートステーション
WithYou 南紀**

ご利用日時:月～金曜/10:00～18:00
(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館

**TEL.0739-25-2111
FAX.0739-25-0085**

[Eメール] nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
[ホームページ] <http://www.nanki-saposute.jp/>
[携帯サイト] <http://www.nanki-saposute.jp/ktai/>

携帯サイトへアクセス!

南紀をぐるっとサポート!

利用料無料

**若者サポート
ステーション
WithYou 南紀**

悩みや不安を抱えている
15歳～39歳までの若者をサポートします。



予約制 相談は予約制になりますので、
お問い合わせください

サポステ 新宮サテライト

ご利用日時: 第2・第4水曜日 11:00～16:00

〒647-0073 和歌山県新宮市木ノ川169-3

TEL.0735-31-7740 FAX.0735-31-7730

[Eメール] shingu@nanki-saposute.jp



予約制 相談は予約制になりますので、
お問い合わせください

サポステ 串本サテライト

ご利用日時: 火曜日・木曜日 13:00～16:00

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27(旧)養春小学校 2階 5・6年生教室

TEL.0735-67-7172 FAX.0735-67-7173



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006

認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】<https://heart-tree.org>



若者サポートステーション WithYou 南紀

サポステ
地域若者サポートステーション
和歌山県委託事業

若者サポートステーション With You は

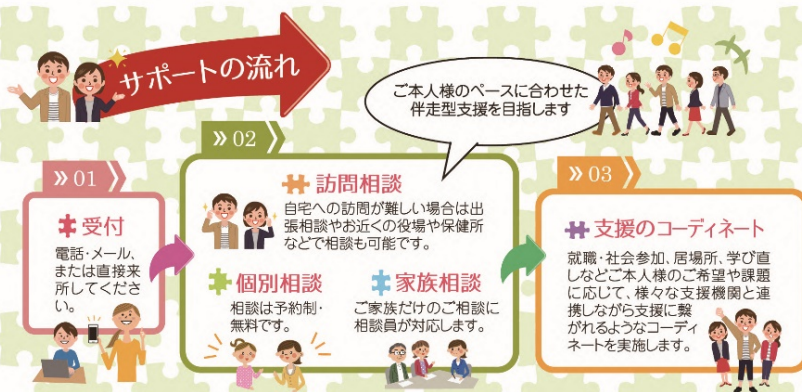


そんなあなたの **はじめての一步** を応援します！

若者サポートステーションWithYou南紀とは？



県内3カ所の「若者サポートステーション」(働くことに不安のある若者の就労的自立を支援する施設)に和歌山県若者総合相談WithYouを併設し、「若者サポートステーション With You」として、一体的に支援を展開しています。おおむね15歳から39歳までの若者が抱える様々な悩みや問題について支援機関と連携しながら対応しています。



★その他の相談として…公認心理士(臨床心理士)によるこころの相談(完全予約制)

好評！
**出張
サテライト相談**
串本・新宮サテライトで出張相談を行っています。詳しくはお問い合わせ下さい。



安心のネットワークで応援します！

若者サポートステーション WithYou 南紀は、各関係支援機関と緊密なネットワークを構築していますので、安心して継続的・発展的なサポートを受けることができます。

さあ！まずは相談してみませんか！
ご家族からのご相談も、もちろんお受け致します。



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006

認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org



NPO法人かたつむりの会

設立趣旨

「まちづくり」や「環境保護」の問題を障害を持った人や社会に出ることに支援が必要な人たちの就労、生活、発達支援につなげて取り組んでいきたいと考え、この法人の設立に至りました。

問題を個々に捉えるのではなく関連した問題、課題として捉え、活動していくことで、関わった全ての人や地域社会が安全で豊かなものになっていくことを願っています。

まったく微力ではありますが、出来る所から少しずつ取り組んでいければと思っています

沿革

2007年度
任意団体がたつむりの会として、社会生活を送る上で支援を求める人たちと共に活動を開始。
2008年2月29日
NPO法人かたつむりの会、設立
2009年2月
「町家カフェ上屋敷二丁目」をオープン。
2009年8月
障害者就労継続支援A型事業所として、県の指定を受ける。
2011年4月
町家カフェ多機能型として、障害者就労移行支援事業所「ワークサポートいこう」を銀座通りに特許一般就労に可及、二年間の支援プログラムを実施する。
2012年9月
町家カフェ2号店として、元中島公民館を改修し「ララロカレ」オープン。
2013年4月
「ワークサポートいこう」を障害者就労継続支援B型事業所に変更。
2014年3月
指定特定相談支援事業所「町家カフェ上屋敷二丁目」を開所。
2016年11月
法人本部、指定特定相談支援事業所、就労継続支援B型事業所「ワークサポートいこう」を移設。
2019年4月
「町家カフェ上屋敷二丁目」を障害者就労継続支援B型事業所に変更。

町家カフェ上屋敷二丁目

(障害者就労継続支援B型事業所)



古民家を改修したカフェです。ランチや手作り石窯で焼くピザが好評です。



田辺市上屋敷2-6-31

営業時間

9:00~14:30(月曜定休日)

TEL 0739-20-5595



RaRaLocale

(障害者就労継続支援A型事業所)

パスタとパンのお店です。
レトロな建物なのでライブなどのイベントも開かれます。
週20時間以上働ける人は雇用保険など社会保険に加入します。



「ララロカレ」
イタリア語で「地元の」という意味です



田辺市上屋敷2-6-7

営業時間

9:00~17:00(火曜定休日)

TEL 0739-34-2146

ワークサポートいこう

(障害者就労継続支援B型事業所)



就労継続支援B型事業所です
より広い層の利用者さんに通っていただけるよう施設等を整備し、平成28年11月に移転しました。
働くことの土台作りを目指すとともに少しずつ工資も得ていきます



田辺市上屋敷1-7-28

開所時間(取組により曜日や時間帯変更あり)

月~金 9:30~16:00

TEL 0739-25-3888

私共 NPO 法人共生舎は社会福祉法の制度に依らずそれぞれの立場の者がその個性を認め生かし、お互いに助け合って生活していくという理念の下に活動しております。

主な活動

・助け合い

・地区住民間の交流
・都市部の人々との交流
・地域の高齢者の生活援助



・(季節毎の行事、イベント etc.)
・(大学ゼミ、子ども会活動、田舎暮らし体験、小旅行 etc.)
・(畑起こし、庭の手入れ、草取り 家の清掃 etc.)

・個性を生かす

・それぞれの人の個性を生かし助け合って生活する場の提供



・競争・経済至上主義によらない生活活動作りをめざす
(オアシス創り)

・自給自足をめざす

・休耕田の活用



・米、野菜作り活動

活動の場

・山あい拠点

田辺市(旧大塔村)五味 240-10 共生舎 古民家 定員 10 名

ただいま活動に共鳴していただける方を求めています

1. 正会員になる。(年会費 5,000 円)
2. 共生舎のPRをしていただける方
3. 上記行事などへのボランティアに参加していただける方
4. 財政的援助をしてくださる方(金額は問わず)

連絡先 NPO 法人共生舎 田辺市五味 240-10
(Tel) 0739-62-0400

田辺市「ひきこもり」検討委員会設置要綱

（設置）

第1条 思春期・青年期にある者（以下「青少年」という。）にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- （1）「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- （2）前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- （3）「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- （4）「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- （5）前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

（組織）

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者、民間支援団体、医療・保健・福祉・教育関係機関、市職員等のうち、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする

（委員会）

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

（事務局）

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

田辺市「ひきこもり」委員会 委員構成

		選 出 区 分	備 考 (選 出 団 体 ・ 役 職 名)
委 員 長	1	福祉関係団体・機関	社会福祉法人やおき福祉会
副 委 員 長	2	民間支援団体	認定NPO法人ハートツリー 若者サポートステーション With You南紀
副 委 員 長	3	学識経験者	臨床心理士／公認心理師
小 委 員	4	学識経験者	
小 委 員	5	民間支援団体	認定NPO法人ハートツリー ひなたの森
小 委 員	6	福祉関係団体・機関	社会福祉法人ふたば福祉会
小 委 員	7	福祉関係団体・機関	西牟婁圏域障害児・者相談センター にじのわ
小 委 員	8	保健機関	田辺保健所(精神保健福祉相談員)
小 委 員	9	田辺市役所	教育委員会学校教育課
小 委 員	10	田辺市役所	教育委員会生涯学習課
小 委 員	11	田辺市役所	やすらぎ対策課(障害福祉室)
小 委 員	12	田辺市役所	健康増進課
	13	民間支援団体	NPO法人 共生舎
	14	青年会議所	(公社)白浜・田辺青年会議所
	15	民間支援団体	NPO法人 かたつむりの会
	16	福祉関係団体・機関	紀南児童相談所
	17	医療関係者・団体・機関	精神科医師
	18	医療関係者・団体・機関	精神科医師
	19	医療関係者・団体・機関	紀南こころの医療センター(臨床心理士/公認心理師)
	20	教育関係機関	田辺市教育研究所
	21	教育関係機関	田辺市養護教諭研究会
	22	教育関係機関	和歌山県教育庁 紀南教育事務所
	23	教育関係機関	紀南六高校代表
	24	教育関係機関	西牟婁養護教諭研究協議会高校ブロック代表
	25	教育関係機関	南紀高等学校
	26	学識経験者	文京学院大学(准教授/臨床心理学博士/公認心理師)
	27	学識経験者	主任児童委員
	28	学識経験者(民生委員・児童委員等)	龍神地区
	29	学識経験者(民生委員・児童委員等)	大塔地区
	30	学識経験者(民生委員・児童委員等)	中辺路地区
	31	学識経験者(民生委員・児童委員等)	本宮地区
	32	田辺市役所	保健福祉部長
	33	田辺市役所	子育て推進課
	34	田辺市役所	商工振興課